

2023年 8月号

匹田くみこ 市議会たより



暑いであな〜
身体に気をつけて
お過ごしください!!

暮らしは政治。安心して暮らせる地域のあり方をみなさんと考えたい。

昨年9月に発足した「臼杵市議会活性化検討特別委員会」で、 いろんな話し合いを進めています。

課題のひとつに『ICTの推進』を掲げており、そのために議会にタブレットを導入しようとしています。※県内でタブレット導入を行っていない議会は、津久見、豊後高田、姫島、臼杵の4自治体のみ。

「まずは使ってみよう!」と6月議会の会議でテスト使用しました。

タブレットが使えるようになれば、**資料の作成・配布・印刷・送付に係る事務作業の負担の軽減**や、**ペーパーレス化による費用の削減**、**資料送付の迅速化**など、議会活動の活性化につながることは間違いありません。

今年度の補正予算または来年度当初予算でタブレットの購入費を要求させてもらい、市民に理解していただいた上で導入し、有効的な活用をめざしたいです。



6月定例会の議案から

「他の普通地方公共団体の公の施設の利用に関する協議について」

大分都市広域圏*における「**公共施設の相互利用**」が進んでいますが、その一つとして6月に、豊後大野市にある「三重全天候型運動場」の臼杵市民の利用について豊後大野市と協議し相互利用に係る協定の変更が提出されました。

*大分都市広域圏とは…

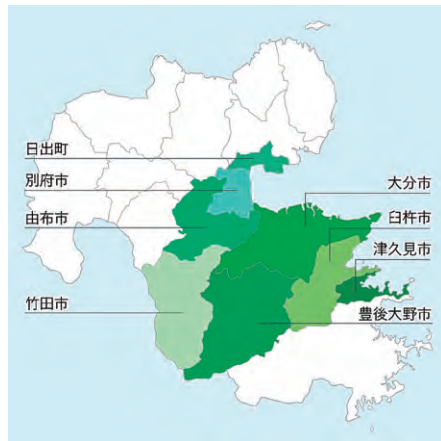
国が提唱する「連携中枢都市圏構想」に基づき、平成27年に、**大分市と周辺市町の臼杵市、別府市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町の7市1町が連携協約を締結したものです。**「経済成長」「都市機能の集積・強化」「生活サービスの向上」により、人口減少・少子高齢化社会においても一定の圏域人口を有し、活力ある地域社会を維持することをめざしています。

今年4月からは、大分都市広域圏内の図書館の相互利用を促進するため、圏内の住民だれもが以下の図書館を利用できるようになりました。

- 📖 大分市民図書館
- 📖 別府市立図書館
- 📖 臼杵市立図書館
- 📖 津久見市民図書館
- 📖 竹田市立図書館
- 📖 豊後大野市立図書館
- 📖 由布市立図書館
- 📖 日出町立図書館

(※相互連携サービスで他館から借りた本は、直接貸出館までご返却ください)

「大分都市広域圏ビジョン」に基づいて、人口減少、社会構造の変化による深刻な課題に対して**広域で取り組み、安心で快適な暮らしを継続**しようとしています。



まちづくりカフェ

どなたでもお気軽にご参加ください/
～議会の報告+お話し会～

【日時】8月26日(土)11:00～16:00

【場所】ひきだくみこ事務所(臼杵市立東中学校の横)

お茶をしながら身のまわりのことをゆるりとお話ししましょう♪予約なしでもオッケーです。来る時間も帰る時間も自由。お気軽にお寄りください!

090-1943-8056
(ヒキダ)

臼杵市大字臼杵70-16 (事務所)
臼杵市井村1960番地 (自宅)
TEL&FAX 0972-63-7140
メール kuu.okok@gmail.com
ブログも見てね!→



一般質問 何のためにするん？

市政運営全般に対して議員が質問をし、市役所側(市長・副市長・教育長・政策監・担当課長)が答弁します。市の方向性や姿勢を答えてもらうことで、その件に対する政治責任が明確になり、やりとりを通して政策を後押ししたり、変更・是正させたり、新規の政策につなげることをめざしています。何より市民に現行を知ってもらいたい、関心を持ってもらいたい…と思いながら質問しています。

Q 高齢者福祉を充実させていくために

【質問した背景】

臼杵市における**高齢化率は2040年には45.6%**と予想されています。生産年齢人口が急減、85歳以上の割合が増えることから、介護のニーズは高まり高齢者の一人暮らしや高齢夫婦のみの世帯、認知症の方が増えていくことが見込まれます。

地域共生社会をめざすうえでカギとなる「**地域包括ケアシステム**」の構築について。また、コロナ禍で途切れてしまった感もある高齢者の見守りや支え合い・集いの場の必要性などの、現状や支援策について聞きました。



A コロナ禍において、先の見えない自粛生活が続いたことで多くの高齢者が心身に何らかの影響を受けていると考えている。今もまだ休止している高齢者サロンや老人クラブもあり、コロナ前の状況には戻っていない。市は「フレイル予防の動画DVD」「活動の手引き」を配布するなど安心して活動できるよう、区長・民生委員・児童委員・高齢者サロンの代表と連携して地域の声かけや見守りを強化していく。

団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据え、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けられるよう、住まいを中心に医療、介護、予防が包括的に支援できる地域包括ケアシステムを進めてきた。

高齢者を取り巻く問題が複雑化・複合化していることから、本人はもちろん同居する家族への支援も大切だと考え、地域包括支援センターや社会福祉協議会など多様な機関と連携し地域住民相互の支え合いを支援している。また、他機関・他職種で構成される「臼杵プラットフォーム」を機能させ、包括的な支援体制の構築をめざしている。

国が2020年に包括的な支援体制の構築を推進するために創設した「重層的支援体制整備事業」についても、臼杵市のこれまでの取り組みを活かし検討していく。

【お答え：高齢者支援課長】

取り残されるひとがない地域をめざして提案



高齢の親とひきこもりの子どもが同居する「8050問題」など世代にまたがった課題が増えています。高齢者に限らず、介護、障がい、生活の困窮など、**幅広い困りごとを一体的に包摂できる体制**を整えてほしい。

食事、洗濯、掃除などの生活支援を有償ボランティア(1時間500円程度)にすることも検討してほしい。今まで無償で提供されてきた家事(ケア労働)に価値を与えるという意味もある。高齢になっても自分らしく、社会参加や地域貢献が生きがいとして実感できるような仕組みが必要だと感じます。



公共建築物のマネジメントについて

いわゆるハコモノと呼ばれる建築物の適正な管理について

【質問した背景】

臼杵市の人口推計によると、2015年からの10年間で約6000人減少すると予想されている一方で、今後次々に耐用年数を迎えるハコモノには莫大な費用が必要となります(現状として築30年以上の施設が6割を占める)。

本市の公共施設の更新費用は、2016年からの40年間で約2250億円、1年間の整備額が56.3億円と示されています。

公共建築物にかかるコストが財政を圧迫し続けることのないように、空いてしまった建物は利活用ありきではなく、財政的に有利に処分できるものは売却する、もしくは解体するという検討も必要だと思います。もちろん、市民の意向を汲むことが何より大切で、そのためには、1つの施設に要する経費(新設費用、維持費用)を算出した上で、市民が享受するメリット(利用状況や、市民にもたらす交流・親睦)を時間をかけて考える必要があり、そのための情報公開が必須です。市として「建物を残し利活用する」と決めるのなら、市民の声を十分に拾い活かすことが重要です。

2016年に策定した「臼杵市公共施設等を総合管理計画」にうたわれている施設の適正化(計画では、施設の総量を10%削減)の必要性と、サービスの低下を最小限に抑えながら機能を集約していくという基本的な道筋を、わかりやすく市民に示してもらいたい……との思いで質問しました。



「臼杵市公共施設等総合管理計画」により、可能な限り次世代に負担を残さないような公共施設の在り方を、効率的・効果的に進めようとしている。

現状として、市民一人当たりの公共建築物延べ床面積は、5.60㎡(2015年)から6.57㎡と、増えている(2020年)。

これまで所管部署が保有していた情報を全庁的に集約し把握するよう努め、その必要性については慎重に検討し、施設の長寿命化、複合化、廃止、除却等を検討し実施することにより施設の最適化に努めていきたい。

市民への情報共有としては、ホームページに「[臼杵市公共施設等総合管理計画](#)」を載せている。公共施設の管理・運営、最適化には市民の理解や協力が不可欠であるので、わかりやすい見せ方を工夫したい。

【お答え:財務経営課長】

市民本位の
取り組みに期待



公共建築物を考えることは、地域をどうしていきたいかというまちづくりそのものです。

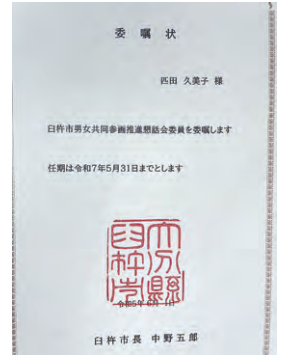
人口減少などにより税収は減り財政は厳しくなるのだから、持っているものを減らすのは当然ではありますが、そのためにはたくさんの市民で幅広く考えながら進めていく必要があります。幅広い世代が参加できるワークショップなど、市民本位の取り組みにつながるような情報提供を心がけていきたいです。



臼杵城址からの眺め

男女共同参画推進懇話会 2年間の任期を精一杯努めます!!

6月から新たな「臼杵市男女共同参画推進懇話会」がスタートし、会長に選ばれた大分大学福祉健康科学部准教授の飯田法子さんが「『変わる』ってエネルギーがいるけど、ワクワクしますよね」と挨拶されました。ほかにも様々な背景をもつ15名の委員で構成されています。



- 男女共同参画と言うよりも「ジェンダー平等」の方がだれもとりにこぼさないニュアンスがある
- DV被害者の相談窓口はあるが、加害者の救済もいるのでは？（「男は強くあらねば」と言う思い込みが、男性自身を追い込むケースも多々あるという話も出ました）
- 20代の自分には「男女の役割分担意識」の根強さがなぜなのか理解に苦しむ
- たとえば仕事で平等の機会が与えられたとしても、女性は家事も育児も背負ってしまうのでトータルでがんばりすぎちゃう傾向にある

などなど率直な意見が交わされました。

『男は仕事/女は家庭』という固定的な性別役割分担意識の根強さはまだうかがえます。性別にとらわれず誰もが自分らしく暮らせるように、家庭で職場で地域で、意識改革を進めたり社会制度や慣行の見直しを重ねたい。一人ひとりが尊重され、それぞれの可能性に向けて活力が満ちるような臼杵市であってほしいと思います。

問「男は仕事、女は家庭」のような、性別によって役割を固定する考え方をどう思いますか。(○は1つ) ※「固定的性別役割分担意識」と呼ばれます。

●「同感しない」と回答した割合は、全体の約6割を占め、前回調査より10%近く増加しました。大分県調査と比較しても約2%多くなっています。



性別にかかわらず、個人の意思を尊重して生きることができる社会の在り方が求められています。



(2021年 臼杵市「男女共同参画社会づくりのための意識調査」より)



山内流講習 200年の伝統をつなぐ

市内小学校のプール授業で、山内流を知ってもらうための講習を行いました。浮き身やバタ足で水と仲良くなることと、基本泳法を体感することが目的です。山内流は海に面した臼杵市で江戸時代後期に武芸として伝えられたもので、立ち泳ぎしながら弓を放つ「弓術」、筆で文字を書く「水書」、着物を脱いだり着たりする「衣服脱着」などがあります。



私は小学3年生から通った山内流で泳法を超え、さまざまなことを学びました。水に体を沿わせる心地よさ、歴史の連なりの中に自分がいるという自負や、故郷を誇る気持ち。たくさん子どもたちに伝統の泳ぎに親しんでもらい、命を守るための技と心を身に付けてほしいです。



核廃絶と平和行政に関する要請 平和が大事



7月4日、市長と市議会議長あてに「核廃絶と平和行政に関する要請」を行いました。意見交換の後、平和への希求をアピールして歩きました。

テレビでは連日、ウクライナ侵略のニュースが流れ続けています。核兵器が存在する限り、私たちはその脅威(脅し合いの世界)から逃れることはできません。一昨年に発効した「核兵器禁止条約」を批准し、世界に広げることが大切だと思っています。



臼杵市は、核兵器も戦争もない平和な世界の実現を願って「非核・平和都市」を宣言しています。私たちにできることは何か？平和運動センターでは平和への道のりとして、人権・環境・暮らしを大切に活動を進めています。